



デジモンテイマーズ

第49話

首都壊滅！
クルモンの願い

第六稿

P 1 3 筑波研究所内シーン
台詞を若干変更。

脚本ノ小中千昭

Animation Play by Chiaki J. Konaka

2001ノ12ノ01

登場人物

松田 啓人(10)	ギルモン	デュークモン
李 健良(10)	テリアモン	セントガルゴモン
牧野 留姫(10)	レナモン	サクヤモン
加藤 樹莉(10)	クルモン	
	ベルゼブモン	インプモン

Hypnos Team

山本満雄(32)	ネット管制室長
鳳 麗花(26)	チーフ・オペレーター
小野寺恵(23)	オペレーター

Wild Banach

ドルフィン「ロブ・マッコイ」(50)	バベル(36)
デイジー(40)	カーリー(43)
SHIBUMI「水野 伍郎」(42)	

Parents

松田 剛弘(41)	タカトの父親
松田 美枝(35)	タカトの母親
李 鎮宇(40)	ジエンの父親
牧野ルミ子(28)	留姫の母
秦 聖子(49)	留姫の祖母
加藤 肇(台詞無し)	

カイ(10).....タカトの従兄弟

ジョニー・ベッケンスタイン(51).....国連防衛軍科学顧問

アイ
マコト

└─── 台詞無し

ステルス・パイロット(英語の台詞のみ)

ADR-01.....樹莉型エージェント

前話リプライズ／都庁 最上部付近

獣王拳を叩き込むベルゼブモン！

しかし、樹莉はスフィアから出て来ようとしなない。

タカト「加藤さああああんっ！」

カーネル・スフィアに飛びつくデュークモン。しかし穴が閉じられていく！

閉じきる間際、目と目が合う樹莉とタカト。

樹 莉「タカト……くん……」

ADR-10の攻撃を食らい吹っ飛ばすベルゼブモン。

ベルゼブモン「がああああああっ！」

転落し——、量子化していくベルゼブモン！

サクヤモン「ベルゼブモ——ーン！」

ベルゼブモン「ここで……終わる……わけには、いかねえんだ……」

サブタイトル

都庁 最上部付近

紫のアウラを放ちながら、凄まじい速度で上昇してくるサクヤモン。

サクヤモン「ベルゼブモン！ 飛びなさい！ 飛んで……」

しかし、力無く墮ち行くベルゼブモン。

サクヤモン「ベルゼブモン……！」

デュークモンも急速降下していくが——、

どんだん希薄になっていくベルゼブモンの姿。

ベルゼブモン「……ちく、しょう……へへ……、とことんカッコ

悪かったよな、俺ってよ……（目を閉じる）」

デュークモン「ばかやるおおおおお！」

自由落下中のデュークモン、ADR-10の攻撃を食らう！

サクヤモンもまた阻まれた！

サクヤモン「ふざけないでよ！ 何諦めているのよ……！」

浅草／アイ、マコの家

疎開の為、再びそこを発とうとしている一家。
外出着のアイとマコト、立ったままテレビに小さく
映るベルゼブモンを凝視。

カーネル・スフィア内

半透明で眼下に展開する光景――。

樹莉、胸の前に握った拳がブルブル震えている。

樹莉「あたしが――、あたしが――こんな酷い事……」

クルモン「(ノンノンノンと首を振り)ジユリ、違うですっ！」

都庁 デ・リーパー・ゾーン表面/夕刻

量子化しきろうとしているベルゼブモン、デ・リー
パー・ゾーンの中に落ち、波紋が広がる。

デュークモン「ベルゼブモオオオン!!!」

静寂――。

タカト「! ああっ!!」

ゴウン! 泡から突出する、内側からの先鋭的な力。

バシュ! 飛び出してくるグラニ。

デュークモン「グラニ!」

グラニの首の上には――インプモンが。

留 姫「――ありが、とぅ……(やや涙)」

グラニ、その翼でデュークモンを捉えていたADR-10
を撃破!

デュークモン「今度こそ! このデ・リーパーを!」

と、グラニの目がやや明滅した。

デュークモン内

タカト「! なっ、何?」

山 木「(オフ/無線)タカト君! みんなそこから早く離脱す
るんだ! 急いでくれ!!!」

タカト「どっ、どうして?」

オペラタワーノワイルドバンチ観測所

騒然となっている観測室内。

モニタにはノイズ混じりの画面で、都庁周辺のレーダー映像が映っている。

恵「(背景オフ台詞) 攻撃開始まで後40秒を切りました!」

麗花「(同時クロストーク背景オフ台詞) 国連防衛軍から再度の警告が来ています! 山木さん!」

山木「国連防衛軍が間もなく総攻撃を始めるんだ! タカト君達は早くそこから退避してくれ! 頼む!」

デュークモン内

タカト「(愕然) ええっ! ——— 駄目! 駄目だよ! (悲痛)」

オペラタワーノワイルドバンチ観測所

山木「どうしたんだ!」

タカトの声「(オフ/無線) あそこには加藤さんが! 加藤さんが都庁のてっぺんに捕まってるんだ!」

山木「(呻く) …… そうだったのか! ……」

鎮宇「はっ、早く国連防衛軍に中止を! 攻撃中止を!」

麗花「(焦る) 衛星回線が不調で——」

恵「攻撃開始まであと30秒!」

山木「早く! 頼むから退避してくれええっ!」

都庁付近ノ夕暮れ

デュークモン、キツと背後の空を見上げる。

つんざく高音のジェット音。

沈みつつある夕陽に浮かぶ、三機の黒い三角の機体。

低空で都庁に飛来しつつある漆黒の異形翼機、B2-A

スピリット・ステルス。底部にミサイルディスペンサーを抱えている。側面には国連マーク。

パイロット「(無線/背景オフ) Approaching to the target.

Letting time, um... 22 seconds. Clear to fire SAM.」

デュークモン「(苦渋)みんな! ここから離れるんだああ!」

サクヤモン、セントガルゴモンら、脱出。

オペラタワー

鎮 宇「通常兵器が効かないと判っていて何故?」

モニタに向かっていたドルフィン、振り向き

ドルフィン「あれが積んでいるのはただの爆弾ではないらしい」

山 木「電波の干渉を受けない為にステルスで来ている。何か策があるというのか?」

カーリー「早く攻撃を止めさせて! あそこには子どもが!」

デ・リーパー・ゾーン

ステルス、底部ディスペンサー開放。バシユバシユ

バシユ! 小型クラスター爆弾が三機から各百発程

発射され、泡に投下されていく。

飛び去っていくステルス。

デ・リーパー・ゾーン内に起こる、小さなしかし激しい輝点群。

デ・リーパー・ゾーンが震える。

バベル「(オフ)なるほど——、あれはジャマーだ」

オペラタワー

窓から見つめている一同。

カーリー「ジャマー?」

バベル「攪乱させている。強烈な電磁波を放出させたんだ」

ノイズ混じりの、ネット電話画面に、テンガロンを被った初老の科学者が映っている。

ドルフィン「騎兵隊気取りかね？ ジョニー」

ジョニー「（無線ノイズ混じり）破壊ではない。麻痺させるのが意図だ、ドルフィン」

SHIBUMI「（覗き込み）なんだ、ベッケンスタイン教授じゃない。元気かい？（手を振る）」

やや離れた上空

消耗しきったインプモンを抱くサクヤモン。

インプモン「——ちく、しょう……」

サクヤモン「しゃべらないで……。デュークモン！」

デュークモンは、都庁最上部に最突入を図る！

タカト「加藤さあアアアアん！」

カーネル・スファイア内

激しい振動に揺れている球内。

眼下のデ・リーパー・ゾーンは、まるでマグマの様にドロドロとなっている。

樹莉「もう嫌だアアアツ！ 出して！ ここから出して！」

拳で半透明の球壁を叩き続ける樹莉。

デ・リーパー「（大人びた樹莉の声で）人間、愚かしい生き物」

『それ』を見て怯えるクルモン。

クルモン「くくくくくく（恐怖）」

樹莉「（背オフ）やめてよ！ あたしの声で話さないで——」

振り向いた樹莉、愕然。

目の前に立っているのは、床からケーブルで生えた状態の、ADR-01。樹莉の顔をしたエージェント！

ADR-01「加藤樹莉の思考ロジックにより、憐れみを感じる」

樹莉「（恐怖）やだ、こんなの、もうなの嫌あああっ！」

クルモン「ジューリッ！」

スファイア内底面より、無数のケーブルが湧きだし、

樹莉の躰を絡め拘束していく。

樹莉「いやああああああっ！」

デュークモン内

タカト「何が起ったって、僕は絶対に加藤さんを助けるんだ！

行くぞデュークモン！」

デュークモン「（オフ）タカト、待て！」

タカト「なっ、どうしたの？」

デュークモン「（オフ）究極体であつても、あの泡の中に入って

しまふと力を失う！ 忘れたのか？」

タカト「だって！ だって！！！（顔を歪め）」

デ・リーパー上空

暮れゆく空に、マグマの様に光を放つ広大なるデ・

リーパー・ゾーン。その上空に滞空するデュークモ

ンは、あまりにも儂い存在。

タカト「（オフ/悲痛）くそおおおおおっ！！！」

——溶暗

デ・リーパー・ゾーン/大俯瞰/昼

赤黒い巨大な泡は、直径12キロにまで拡大。

S「一週間後」

ソゴゴゴゴ……。律動が低く聞こえている。

タカト「（モノ）こんなことになるなんて、一年前の僕は、夢に

だって思わなかった——」

つくば学園都市/近代的なビル外観

S「筑波/先端通信科学研究所」

同/会議室

椅子に座っているタカト、ジェン、留姫。

鎮宇らの質問に、俯いて答えているタカト。

タカト「(モノ)いつも通りの毎日が、これからもずっと続くって思ってた——」

樹莉の事を想い、唇を噛むタカト。

話を聞いて声も出ない大人達——。

廊下

山木から話を聞き、強張らせた顔で黙っている樹莉の父親。

それをギルモン、心配そうに見上げている。

タカト「(オフ)ギルモンと出会った時、そうじゃないって判って……。びっくりする事がいっぱい起こって——」

ワンボックス車内／横浜付近

運転しているタカトの父。助手席に母。

後部席にタカトとギルモン。

タカト「(オフ)ギルモンと友達になったり、他のみんながテイマーになったり、楽しい事だっっていっぱいあったけど」

窓外、東京を覆うデ・リーパー・ゾーンが遠ざかっていく。それに振り向くタカト。

タカト「(オフ)こんな事が起こるなんて……」

逗子／タカトの母親の実家／夕刻

海——。沈みつつある夕陽が波頭を煌かせている。

小高い岬の中途に立てられた、古い日本家屋。

その縁側に座り、海を見つめているタカト(冬服)。脇でうずくまっていたギルモン。耳をピンと立てる。室内奥から誰かが歩いてくる。

ギルモン「タカト」

タカト「どうしたの？ギルモン——(振り向き、『あ』)」
カイ「よっ」

モコモコのダウンを着たカイが、笑顔で来た。

タカト「カイ……。久しぶり。いつ来たの？」

カイ「今さー（隣に座る）」

タカト「……？」

カイ「やっぱ寒いなこっちはさー。でも、海は同じ海だ」

タカト「……うん……」

横浜／ホテルニューグランド／レストラン

和洋折衷の調度、格式ある室内。

静かに食事を摂っている各テーブル。

若い外国人女性、隅のテーブルを興味津々に見て、隣の男性に耳打ち。

聖子、ルミ子、かつて着た、少女らしい服の留姫、

そして——、居心地悪そうなレナモンが前菜の前に座っている。

レナモン「——（小声）留姫」

留姫「何」

レナモン「私はやはりこの様な席には……」

留姫「今更何よ。いってさっきゆったじゃん」

レナモン「……（汗）」

ルミ子「（苦笑）レナモンっ、て女の人でしょ？ だよね？」

レナモン「——デジモンには本来、性別はありませんが……」

ルミ子「でも絶対あなたは女の子。だから、あたしたちの家族」

レナモン「……」

留姫は——、やや不安気に窓から外を見る。

曇ったガラスの向こうに、山下公園の灯。

聖子「留姫ちゃん」

留姫「（は、と聖子を見る）」

聖子「今は、家族の事と、ディナーのお味の事だけ、考えてい

て——。お願い」

留姫「——うん」

留姫、今は反応していないDアークを、テーブルの

下で握っている——。

逗子/タカトの母親の実家

タカト「カイ、どうしてこっち来たの？」

カイ「従兄弟がこっちですんげー頑張ってるのに、黙って沖繩で見たらんないさー普通」

タカト「……（微笑）うん」

カイ「——タカト……、お前さ……」

タカト「何？」

カイ「お前、達、か……。このでっかい世界を救おうっていうのがさ、何か……」

タカト「——僕は、ただ、ギルモンや、ティマーの仲間と——、助けたいだけ……。大切なもの。大切な場所、——（うんと首を振り）大切な、友達——」

カイ「（暫くタカトを見つめ）——ウムヤীগワーなんか？」

タカト「えっ？ 何それ」

カイ「初恋の人（ニツ）」

タカト「（ぎくっつ）えっ、ここに恋ってそんな、ってゆか僕
カイ、苦笑し、夕暮れの空を見上げる。

カイ「そっか……。そうなんだ……。なら判るさー」

タカト「ちよつと待ってよ、僕——」

カイ「……」

タカト「（じつと考え）そう、僕、好きだった——、ずっと……」

カイ「——（タカトに向き）」

タカト「だから、助けたい——」

カーネル・スフィア内

球内を覆い尽くすケーブル。

その中に、閉ざされた樹莉。しかし、手足は自由に動かせる。樹莉は自らの心で、自分を拘束している。

クルモン「ジューリ？ クルモンよくわかんないです。でも、樹莉が、自分を苛めるみたいな事考えちゃうと、もつと酷

い事になつちやいまーすよ？」

樹莉、虚ろにクルモンを見つめる。

樹莉「何であたしなんか……」

クルモン「クルモン、樹莉、好きクル。樹莉、もっと笑って欲しいくる。元気、いっぱいになって欲しいクル！」

樹莉「（僅かに瞳だけ反応）——何で、あたしなんかを」

カメラ、壁面を抜けて急速トラック・バック。

広がるデ・リーパー・ゾーン内の光景

最早そこは、地上ではない。

真っ赤な、マーブル模様の中の下、粘液に満たされた深海の底に、ナイフで抉られたバターの様に解体されつつある建築物群。放射状の光が時折煌く。

筑波／研究所内

麗花「アメリカ、ロスアラモス研究所から、衛星通信です」

麗花らの許に集まる一同。

ノイズ塗れのウィンドウ内に、ベッケンスタイン教授が映っている。

ドルフィン「ジョニー、そっちはどうだ」

ジョニー「合衆国のデ・リーパーも拡大速度を上げている。衛星

回線もそろそろ危なくなってきた」

デイジー「そう……」

ジョニー「君たちにデータを送った。一週間前に私が指示して撃

ち込んだクラスター・ジャマー弾には、ラジオ・ビーム

観測装置も積んであった」

ドルフィン「ほう？」

ジョニー「殆どが消去されたらしいが、未だ僅かに幾つかが建物の隙間に入り込んで生きている。それが送ってきたデータで、奇妙なところがあった」

カーリー「奇妙って……？」

デ・リーパー・ゾーン内/渋谷付近

ビルとビルの間隙間、側溝の置くに挟まっている半壊したクラスター・ジャマー。機能の一部が生きており、LEDを明滅させている――。

ジョニー「クラスター・ジャマーが観測したデータによると、デ・リーパー・ゾーンの内部を走る情報のやりとりが――」

変更シーン

筑波研究所内

ドルフィン「(ニヤ)当ててやろう。光より速い。そうだね？」

ジェン「えっ？ 光よりも速い……？」

画面内ジョニー「流石と言うべきだな、ワイルド・バンチ」

ドルフィン「あの巨大な量子の泡の急速進化は、それしか考えられないからね」

デイジー「(険しい顔で) 樹莉という女の子の思考ロジックと言語を吸収までして、何が進化よ」

バベル「アレは巨大な量子コンピューターのような構造だと想定していた」(カーリーに)「これでイケそうだな」

カーリー「私たちは、既にその予測に基づいて、デ・リーパーを元の原始的プログラムに退化させようとしているの」

カーリー、自分の端末の画面をインサートさせる。
ブラック・ホールの様な褶曲図表(別紙資料参照)

が浮かぶ。

注(文末)

バベル「オペレーション・ドワードルバグ。蟻地獄計画だ」

画面内ジョニー「やはり君たちに任せるのが一番の様だ。頼む」

SHIBUMI「さて、予測が当たった。ぐるぐる渦巻き出てくるぞ」
背を向け、指を回しながら向こうへ歩いていく。

ジェン、SHIBUMIの後を追って

ジェン「水野さん！ あの、まだ思いつきませんか？ 僕たちが戦える――」

SHIBUMI「焦るな焦るな。果報は寝て待て、と寝てちゃあしょがないがな。ははははは」

ジェン「(う~~~~~)」

カーネル・スフィア内

気落ちして、疲れ、座っているクルモン。
と、その眼前に、犬ミトンの顔が突き出る。

クルモン「くるっ？」

犬ミトン「わん」

樹莉、犬ミトンを自分に向ける。

樹莉「死んじゃえ。樹莉なんて、死んじゃえ」

クルモン「く……（恐怖）」

樹莉「樹莉がいなくなっちゃえば、もう酷い事なんて起きない。
タカト君だつて危ない目に遇つたりしないんだよ」

犬の口が不気味に開き、樹莉の眼前に迫っていく。

クルモンの顔——、どんどん哀しみに包まれ——

樹莉を覆うケープルが、樹莉の強い哀しみの『気持ち』をデ・リーパー全体に伝えていく。

デ・リーパー・ゾーン内

マザー・デ・リーパーの頂き——、カーネル・スフィアから、光よりも速い速度で伝わる『情報』。

活性化するデ・リーパー・ゾーン。

デ・リーパー「（オフ）人間は愚かしい。人間が生み出した全ての存在もまた愚かしい。もうデ・リーパーは、人間・加藤樹莉のメモリは不要。人間の思考は非論理的なもの」

研究所内

耳に無数のセンサーが点けられたテリアモンが、MRIの様な検査装置の中で眼をぎゅっと閉じている。
モニタに映るテリアモン「まあだ〜？」

鎮宇「（オフ/スピーカー音声）すまんね、テリアモン。もう

少し我慢しておくね」

テリアモン「もーまんたい〜」

心配そうに検査装置を見ていたジェン——

ジェン「テリアモンの何を調べてるの？」

鎮宇「う、うん（やや気まずそうに）。リアライズしているデ

ジモンの組成をデ・リーパー解析に應用している」

ジェン「——そう……（心配）」

テリアモン「（オフ）何か耳の中がかゆいよう」

鎮宇「ああ、もう終わりだよ。すまなかつたね」

バシユ。重いスライドのライドが開き、テリア

モンがサウナから出てきた様に立ち上がる。

テリアモン「ふひゅ〜〜」

鎮宇、テリアモンを抱くジェンの横顔を、目を細く

して見つめ——

鎮宇「（モノノ沈痛に）——すまない……」

東京俯瞰

デ・リーパー・ゾーンから、巨大な光の柱が立つ！

それは、四方に向けて強烈な電光を放った！

デ・リーパー「最初から存在しなかった状態に戻すべきもの。そ

うすれば、歪んだ世界などはじめから生まれなかつた」

衛星高度から見た地球

緩やかな円弧の地球表面。

世界中のデ・リーパーが、光の筋で結びつき、感応

し、情報を伝達している。

筑波／研究所内

恵「世界中のデ・リーパーが結びついて活性化しています！」

麗花「デ・リーパーの温度急速上昇！」

固い顔でモニタを見つめる鎮宇。

デイジー「この規模であんな発熱を起こしたら——、この地球の

大気そのものを変えてしまうわ……」

カーリー「どんな災害が起きるのか想像も出来ない……」

徐々に後退っていくジエン——。

テリアモン「（小声）行くの？」

ジエン「——僕たちしか……（Dアークを握り締め）」

カーネル・スファイア内

犬に首を噛みつかせ、目を閉じる樹莉。

樹莉「あたし、なんか……」

クルモン「バカーツツツツ！」

クルモン、飛び上がって犬ミトンを奪って投げ——

樹莉「クル——」

クルモン、樹莉の顔をポンポンと叩きまくる。

お下げを引っ張り、前髪を掴み、必死に、壮烈に。

クルモン「樹莉のバカバカバカバカーツ！」

泣いている。クルモン、泣きながら樹莉を叩き、必

死に、精一杯訴える。

クルモン「みんな樹莉が好きです！ みんな樹莉の笑ってる顔が

好きです！ タカトも！ ギルモンも！ みんなも！」

痛い。その痛みが、樹莉を覚醒させる。

樹莉「クルモン……」

と！ 球内のケーブルが再びクルモンに襲いかかる！

クルモン「クルルルウウウ（苦しい）」

樹莉「クルモンツッ！」

樹莉、渾身の力で、ケーブルの中で身を擦らせ、そ

こから這い出し、必死に手を差し伸ばす。

樹莉「クルモン！ クルモン！」

クルモン「くるるるるるつつ放してクルー！」

震える樹莉の指先、クルモンに——届こうと——

樹莉「（震える声）助けて……、タカト君……、助けて……」

逗子

樹莉の気持ち、届いた。タカト、立ち上がる。

タカト「加藤さん……」

カイ「どうした」

ギルモン「タカト、どうしたの？」

タカト「加藤さんが、僕に、助けて、って——（強い顔に）」
と、帰宅してくる両親達。

美枝「ただいまー」

剛弘「あれ？ 何だカイ、駅ですつと待ってたんだぞ？」

美枝「（タカトの様子に気づき）——タカト？」

筑波／研究所／廊下

黙って出ていこうとしているジエンとテリアモン。
と、背後から。

SHIBUMI「（オフ）ギリギリ間に合ったかな？」

ジエン「（振り向く）出来たんですか」

SHIBUMI、赤いカードを手渡す。ブルー・カードと
同じデザインだが、赤い色。

SHIBUMI「まだ思いつきのアルゴリズムなんだが、そのカードに
セーヴしておいた。うまくすれば、君たちの助けになる」

ジエン「——ありがとう、水野さん」

レッド・カードをDアークにスラッシュするジエン。
Dアークから光が迸る！

横浜／ホテル・ニューグランド

ほの暗い赤い絨毯の廊下で、立ち尽くしている留姫

（いつもの服）。手には光を放つDアーク！

留姫「行かなきゃ……。あたしたち」

レナモン「——（静かに頷く）」

ドアの方を見る留姫——。

レナモン「——ママ、おばあちゃん、御免！」

逗子／タカトの母の実家／庭

美 枝「タカト!!」

タカトが手にしているDアーク、輝きを放っている。カイ「それ——、どうなっちゃったんだ？」

タカト「ジェンが呼んでる。僕たちが戦える準備が出来たって」
剛 弘「——（受け入れ難い）また、戦いに行くって……」

筑波／研究所廊下

薄く開いたドアから中を見るジェン。

向こうには、鎮宇が立っていた。

ジェン「（小声）行ってきます」

鎮 宇「……（固い顔でジェンを見つめているだけ）」

ジェン、駈けだす。頭上でテリアモン、

テリアモン「（耳を振り）行ってくるね〜」

横浜／山下公園

氷川丸に反射する、真つ赤な閃光。

飛翔するサクヤモン、ホテルに向き一礼し——

東京に向かって飛び去っていく。

逗子／タカトの母の実家

タカトとギルモン、庭の中央に立って

タカト「——僕、行かなきゃいけないんだ」

必死に自制し、唇を噛む美枝。

剛 弘「——つたく、こういう時、どんな事言えばいいんだよ、父親ってさ……。タカト——。ギルモン——」

ギルモン「ギルモンたち絶対帰ってくるよ！」

美枝、裸足のまま庭に飛び出し——、

ギルモンの頭を撫でる。

ギルモン「ふふっ」

美 枝「（涙を抑え、強く）あなたを生んだ事、誇りに思う」
タカト「——（頷く）ありがとう、お母さん！」

カイ「タカトツ！ ちバリヨー！（頑張ってきて来い！）」
タカト「タカト領き、Dアークをかざす！」
ギルモン「うん！」
タカト「行ってきます！」
眩い輝きを放つDアーク！

以下次回

〔注釈〕

オペレーション・ドワードルバグ（蟻地獄作戦）

名称は「ワイルド・バンチ」のオープニング・シーン（子ども達が蟻地獄に蠍を落としている）と、デ・リーパー・ゾーン中央の巨大渦の形状から。